

平成26年6月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.23Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,013	8,518	4,284	4,234	10	10
2 千 石	3,389	6,695	3,367	3,328	4	14
3 内 山	4,928	7,169	3,860	3,309	38	41
4 大 和	3,168	6,485	3,238	3,247	△ 3	△ 2
5 上 野	7,225	15,485	7,588	7,897	△ 6	△ 13
6 高 見	6,688	12,948	6,204	6,744	19	5
7 春 岡	6,386	10,460	5,585	4,875	13	10
8 田 代	11,232	21,426	10,242	11,184	△ 2	13
9 東 山	9,685	18,969	9,263	9,706	26	48
10 見 付	4,321	8,347	4,178	4,169	8	1
11 星ヶ丘	3,324	6,562	2,957	3,605	△ 5	△ 14
12 自由ヶ丘	3,476	7,655	3,501	4,154	△ 7	△ 3
13 富士見台	6,354	15,586	7,213	8,373	6	1
14 宮 根	3,697	8,407	3,974	4,433	△ 2	△ 6
15 千代田橋	3,576	8,666	4,039	4,627	△ 11	△ 23
千 種 区 計	82,462	163,378	79,493	83,885	88	82
H25.6.1	81,840	162,761	79,175	83,586	130	154
対 前 年 比	622	617	318	299	△ 42	△ 72
名 古 屋 市	1,043,700	2,275,171	1,120,643	1,154,528	1,283	1,224
愛 知 県 (H26.5.1)	3,017,847	7,437,337	3,715,557	3,721,780	10,778	9,819

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出生	死亡	自然増減	転入	転出	社会増減
	92	109	△ 17	913	814	99

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和50年	168,861	平成7年	148,847	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537		
昭和60年	163,762	平成17年	153,132	これまでの最少人口	
平成2年	156,478	平成22年	160,015	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成22年国勢調査結果を基礎として、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものです。(平成24年7月中の集計までは、毎月の外国人登録の異動数も加減して推計しています)

千種区の年齢3区分別人口の概況

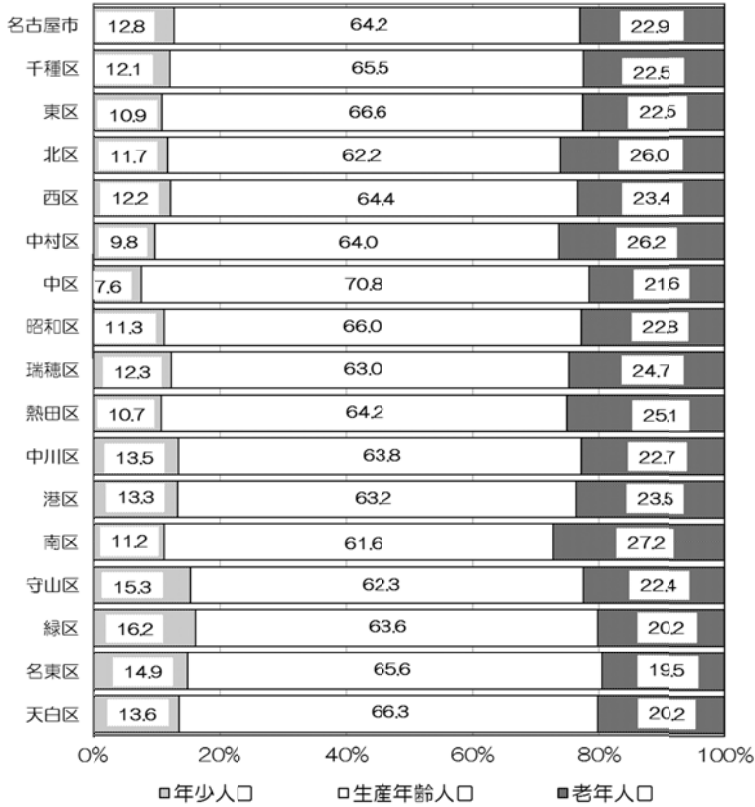


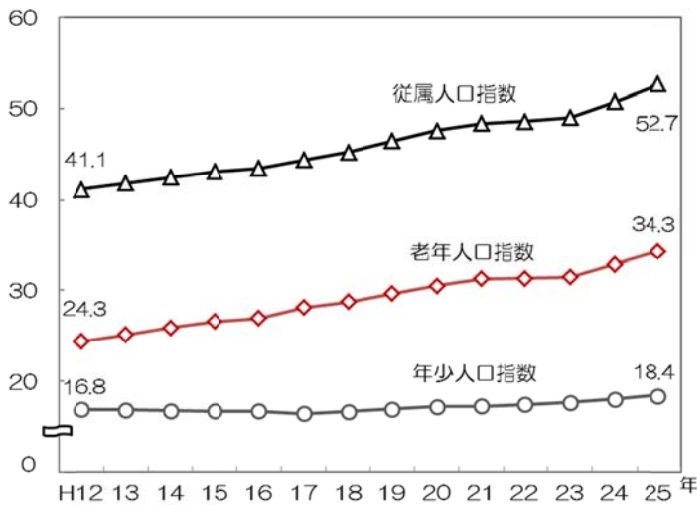
図 1: 区別年齢3区分別人口比率(平成 25 年 10 月 1 日現在)

今回は、まず、千種区の年少人口(15歳未満)、生産年齢人口(15~64歳)および老年人口(65歳以上)の比率についてみてみます(図1)。

名古屋市および各区の平成 25 年 10 月 1 日現在の年齢 3 区分別人口比率をみると、年少人口比率は緑区が 16.2%と最も高く、千種区は 12.1%で 16 区中 9 番目でした。この値は、名古屋市全体の比率よりも低くなっています。

また、生産年齢人口比率は中区が 70.8%と最も高く、千種区は 65.5%で 16 区中 6 番目でした。これは、名古屋市全体と比較しても高い値です。

さらに、老年人口比率は南区が 27.2%と最も高く、千種区は 22.5%で 16 区中 10 番目でした。この値は、名古屋市全体の比率よりも低くなっています。



次に、千種区の年齢構成指数をみてみます(図 2 上)。

年少人口指数および老年人口指数は、働き手である生産年齢人口 100 人が、年少者または高齢者を何人支えているかを示すものです。また、従属人口指数は、年少人口指数と老年人口指数を合計したものです。

千種区の平成 25 年の年少人口指数は 18.4 で、名古屋市全体(20.0)を下回っています。また、千種区の老年人口指数は 34.3 で、こちらも名古屋市全体(35.7)を下回っています。

もっとも、千種区では老年人口指数の上昇が著しく、それに伴って従属人口指数は 52.7 まで上昇しています。この数値は、名古屋市全体(55.7)の数値を下回ってはいるものの、おおよそ働き手 2 人が働き手でない人 1 人を支えていることを意味します。

また、老年化指数は、年少人口に対する老年人口の比率を示すものです。千種区では、平成 12 年には 144.8 でしたが、平成 25 年には 186.5 まで上昇しています(図 2 下)。これは、老年人口が年少人口のおおよそ 1.8 倍であることを示しています。この数値は、名古屋市全体(179.0)よりも高いものです。

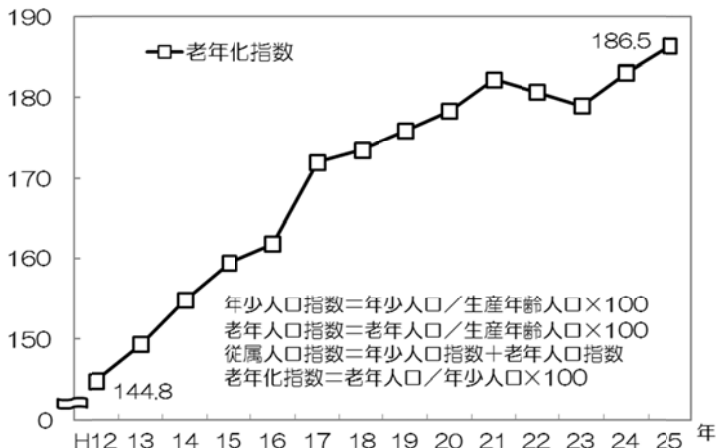


図 2 (上): 千種区の年齢構成指数の推移

(下): 千種区の老年化指数の推移

(各年 10 月 1 日現在)